

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

高齢がん患者の栄養支援システムの開発・テキスト作成に関する研究

研究分担者 倭 英司

武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 教授

研究要旨

高齢者はその身体的特性からサルコペニア、フレイルなど種々の問題を持っている。その状況にがんを罹病すると、疾患そのものにより低栄養状態になるとともに、化学療法や放射線療法などの治療によっても低栄養状態がひきおこされる。今後、在宅でがんのフォローアップを行う際には、低栄養から引き起こされる種々の余病についても考慮する必要がある。また、栄養補助に対するコンセンサスを作成することが急務である。また、医療チームに対する教育も重要であると考えられ、そのためのテキスト作成も必要である。

A. 研究目的

高齢者は身体的な機能の低下が認められ、その上に、生活習慣病などの合併も多く認められる。また、代謝機能の低下により薬剤に対しても副作用が出やすく管理が困難であることが多い。

近年、高齢化に伴い、がんを発症する高齢者も増加しており、今後の高齢化社会の問題になることは疑念の余地はない。

また、がん患者においては、消耗性サイトカインの増加から、るいそうが認められ、また、薬物療法や放射線治療により食欲が低下する。さらに高齢者では抑うつ状態になることも多く、食欲不振をさらに悪化させる。これらの要因が低栄養状態を惹起させる。

以上から、将来、高齢者の在宅におけるがん治療を考える際には、栄養のサポートをいかに適切に行うかということが、患者のQOLの改善のみならず、医療行政的にも重要であると考えられる。

しかし、現状では十分な在宅のサポート体制があるとは言えず、今後、高齢者のがん患者を医療チームとしてサポートするシステムの構築が重要である。

また、現時点では個別に熟練した管理栄養士などのスタッフが介入することはあっても、その知識が共有される期会は少ない。

そこで、高齢者のがん患者に対するサポートの教育体制を、十分に熟練した医療スタッフと、実地の症例のディスカッションを行う機会を作り、症例ベースのテキスト作成を考え、広く方法論を確立することが重要であると考えた。

B. 方法

分担研究者の武庫川女子大学栄養科学研究所で、実際に栄養指導などの行う医療スタッフから症例を提示させる症例検討会を定期的に行っている。症例検討会には管理栄養士のみならず、様々な専門性を持つ医師も参加し、異なる角度から症例をモデルにした教

育システムを確立している。今回はその一環として症例ベースにしたテキストの原案を作成した。

C. 結果

本年度は症例検討会を数回行い、また、研究分担者が関与している在宅訪問医から症例の提供を受け、テキストの作成を行った。この症例は糖尿病の合併例であり、栄養管理が困難であった症例で、管理栄養士がどのように栄養介入を行うかを考える上で興味深く示唆に富むものである。

D. 考察

本研究により、高齢者がん患者に対する栄養サポート体制の確立は、患者のQOLの改善のみならず、医療行政上も意義のあるものとなると考えている。

F. 研究発表

論文発表

無

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 無

2. 実用新案登録 無

3. その他 無